

「ものづくり教育コンソーシアム大阪」による提言（概要）

本コンソーシアムでは、府におけるものづくり教育の活性化に向け、工科高校が育成すべき人材像を明らかにした上で、いま、工科高校が取り組むべきこと、及び、今後の工科高校の取組みの方向性について、提言として取りまとめた。

➤背景となる状況

- 我が国のものづくり産業は、社会・経済の維持発展にとって重要な役割を将来に亘って担うもの。特に大阪は、ものづくりを基盤として発展し、多くのオンリーワン企業が立地。
- しかし、グローバル化の進展とともに、産業の空洞化が懸念される中、生産現場では、高品質で高精度なものづくりの力が以前にも増して求められており、ものづくりの現場を担う人材の育成が急務。
- 工科高校では、産業基盤を支える技術と技能を持ち、発案や改善提案などを積極的、能動的にできる人材の育成が求められている。

提言1 【工科高校が育成すべき人材像】

○ものづくりマインドを持った
将来の高度技術者
工科高校でものづくりの基礎を、大学等で高度な知識、技術を学んで、実技と理論を併せ持ったエンジニアの育成

○高い付加価値を生み出す技術・
能力を持つ人材
高精度、高品質など高い付加価値を生み出せる、職業資格等に裏付けられた技術、能力を身につけた人材の育成

○ものづくり現場を支えて指導・
管理・改善を推進する現場の
リーダーになれる人材
生産現場を監督し、合理化等改善提案ができる実践的スキルと知識を持った人材の育成

提言2【教育内容の質の保証】 ～工科高校がいま取り組むべきこと～

○工学系大学等進学に向けた学力向上と
連携大学の確保

- ・ものづくりマインドの醸成と大学等高等教育機関に接続する教育課程の改善を通して生徒の学力向上を図る。
- ・高大連携を推進し、大学講座や研究活動に参加体験させる機会を設定
- ・指定校推薦入試を含めた大学への進学ルートの開拓

○生徒が身につける知識、技術及び技能の
質の保証

- ・生徒に習得させる技術・技能レベルを明確にした指導とカリキュラム編成
- ・教員の資質向上のための技術研修

○工科高校の職業教育拠点としての機能
充実

- ・時代の変化に即した施設設備の整備
- ・企業と共同して取り組む商品開発、企業での実習など企業との連携の推進

提言3【工科高校の近未来像】 ～人材育成の重点化と学校の個性化を図る～

(1) 高大連携重点型の工科高校
「ものづくりマインドを持った高度技術者」の育成を目標に、工学系大学等への進学を視野に入れた系・専科を設置（平成26年度に設置を計画）し、高大連携を推進するなどエンジニアの育成をめざす教育に重点を置く。

(2) 実践的スキル養成重点型の工科高校
「高い付加価値を生み出す技術・能力を持つ人材」の育成を目標に、国家技能検定など習得させる技術・技能レベルを明確にするとともに、取得した資格を活かすことができる技術者を育成する教育に重点を置く。

(3) 地域産業連携重点型の工科高校
「ものづくり現場を支えて指導・管理・改善を推進する現場のリーダーになれる人材」の育成を目標に、企業との実習、授業での連携を重視し、それらの経験から身につけた技術・技能を活かす技術者を育成する教育に重点を置く。

「大阪における農業教育のあり方懇話会」による提言（概要）

大阪府内の農業系専門高校は、現在、府立園芸高校と府立農芸高校の2校である。今、食の6次産業化など、大阪の農業を巡る現状は大きく変化をしてきている。こうした状況を鑑み、「大阪における農業教育のあり方懇話会」として、農業高校に求められる人材育成や教育内容の方向性について、提言として取りまとめた。

【大阪の農業を巡る現状と課題】

- 大阪の農業は都市近郊の立地を生かし施設園芸など集約的な農業経営を行い、新鮮な春菊などの軟弱野菜や果実を府民に供給している。
- 大阪の就農人口は減少し、高齢化が進んでいることから、後継者の育成が課題となっている。
- 体験型農園や植物工場、グリーンカーテン（壁面緑化）などの農業関連産業への企業参入の動きが出てきている。
- 農産物を加工・販売まで行う「6次産業化」の取組みの動きが出てきている。
- 福祉施設などでは園芸や動物を用いた療法指導が行われている。

【今後の大阪の農業教育について】

- 大阪の都市農業を支える人材の育成
- 農業関連産業や食の6次産業化などの新事業に対応できる人材の育成
- 今後の農業や関連分野をリードできる将来の農業スペシャリストの育成（大学等との接続強化）
- 農業の学びを園芸療法などのヒューマンサービスに生かす人材の育成

【大阪の農業高校における人材育成の方向性】

- **大阪の都市農業を担い農から食とみどりを
クリエイトする将来のスペシャリストの育成**
 - ・ 農業に関する教育活動を通し、チャレンジ精神と創造力、豊かな人間性、勤労観を醸成
 - ・ 大阪の都市農業や広がる関連分野で新産業を創造できる人材の育成
※みどり：環境、癒し（福祉）を意味する

【今後の大阪の農業高校の教育内容と充実方策について】

《教育内容》

- 農業関連産業など多様な進路選択に対応した学習内容の提供が必要
- 今後、農業をベースとしながら、環境分野や福祉分野（ヒューマンサービス）に対応した教育も必要
- 農業生産（1次）をしっかりとやることと6次産業化における加工（2次）や流通・販売（3次）についての知識や経験を積むことが必要
- 理論力をつければ業界をリードできるため、将来の農業をけん引する人材育成にとって大学進学は重要
- 農業を学ぶ者は経営の視点を持つことが今後必要

《充実方策》

- 「農の匠」（大阪府知事が優れた農業経営、後継者の育成に取り組む優秀者を指定）などの外部人材を活用し、農業経営や流通等の基礎となる学習を進める。
- 新産業の学びでは、生徒が外部にインターンシップに出かけ経験を積む。その際、土曜日を有効に活用し学びの機会を増やすことが有効
- 大学進学では、生徒の学習を保障するカリキュラムの編成や基礎学力向上のための補習講習を行う。また、農業クラブ活動などを通じ、得た専門的知識や経験により進学の道を拓くことも進める。

【大阪の農業高校の教育の方向性】

- **「農」と「食」を繋ぐ
新たな学びを創出するカリキュラムの開発**
 - ・ 農業生産（1次）の充実に加え、経営の視点での加工や食品開発、流通・販売等の学び（6次産業化）の開発と環境整備
 - ・ 環境緑化やヒューマンサービスに対応した学習分野の開発
 - ・ 関連産業との連携や外部教育力の活用で、新産業に対応した教育を推進
- **生徒の希望進路を実現**
 - ・ 大学進学後の学習に対応できる基礎学力が身に付けられるカリキュラムの編成と補習講習等の実施
 - ・ 土曜活用による課外実習（インターンシップ）や学力向上の取組みを推進